

営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231	世羅営農センター ☎0847-25-5029
尾道北営農センター ☎0848-29-9611	浦崎支店 ☎0848-73-3311
向島営農センター ☎0848-44-2106	御調支店 ☎0848-76-2242
因島営農センター ☎0845-25-6161	世羅西支店 ☎0847-37-7100

水稲

早生品種では、すでに田植えを終えている圃場がほとんどだと思います。これからの水管理に十分注意し、高温等の異常気象に耐えるためにも強い稲を作りましょう。

また、南部地域の中生以降の品種では、今からが田植えの最盛期となります。箱処理剤と一発除草剤の誤使用には十分注意してください。

【水管理】

田植え後の水管理は、苗の活着や初期

生育にとって、重要な管理ポイントです。田植えから中干しまでの水管理は次の通りです。

◆田植え後～活着まで

寒冷地では田植時期の平均気温が低い
ため、水の保温効果を生かした初期管理
が重要となります。寒冷地での一般的な
水管理は、低温・強風の場合には深水と
します。

活着期に低温が予測される場合は、日
中は3〜4cm(株元が隠れるくらい)で止
水し水温を上昇させ、夕方に入水して夜
間は5〜6cm(通常の湛水深とすること
で、活着までの水温を高く維持しやす
くなります。

植え傷みによって活着が遅れることが
多いので、活着するまで深水管理とし、
その後浅水管理とします。

◆活着後

活着後、分けつ期に入ります。寒冷地
では、有効分けつ数を早期に確保するこ
とがポイントです。そのため、有効分け
つ終止期まで、浅水管理などによって水
温を高くするように努めましょう。

【生理障害】

◆赤枯症

赤枯症は病気ではなく、根がストレス
を受けていることのサインです。症状と
しては、葉に赤褐色の斑点が多数できま
す。田のガス湧き等により根の養分吸収が

阻害されることで発生しています。

このような場合は、落水して田を干し、
土壌中に酸素を供給するとともに、停滞
水を除去します。これによって土層を酸
化的にさせ、有害物質の発生を抑えるこ
とができます。

また、豊土サンブ
リン(追肥用)5kg/
10a等を施用するこ
とで緩和することもでき
ます。

◆硫黄欠乏症

管内で硫黄欠乏症による初期生育停滞
および葉の黄化が確認されています。こ
の症状も赤枯症と同様に土壌還元の原因
により起こると考えられています。

対策としては、赤枯症と同様に落水し
て田を干す等、停滞水を除去します。
併せて、発生後の対策として「畑のカ
ルシウム」20kg/10a

や「マルチサポート2
号」20kg/10a等を施
用することで緩和する
ことができます。

【病害虫】

梅雨に入ると、いも
ち病が発生しやすくな
ります。

発生しやすい気象条
件としては、曇雨天日



▲赤枯症



▲イオウ欠乏症



▲いもち病

数が多く、風が弱くどんよりとした天候
ほど発生が多くなります。

また、ウンカやコブノメイガなどの飛
来害虫にも注意が必要です。

柑橘



▲コブノメイガ



▲コブノメイガ被害



▲秋ウンカ被害

本年度の温州ミカンは不作樹が多
なっています。園内で開花時期がバラツ
クので、防除を徹底しましょう。

【病害虫防除】

◆ミカンサビダニ・チャノホコリダニ
サビダニ、ホコリダニは、葉の上で増
殖し果実へ移動してきます。落弁期にア
グリメックで防除しましょう。



▲サビダニ被害果(果実が茶色・黒く変色する)



▲ホコリダニ(果実が灰色になる)

◆アザミウマ類

近年アザミウマ被害による正品率低下
が問題となっています。毎年被害が出る

園地は、6月10日頃にスピノエースフロアブルを追加散布しましょう。



▲アザミウマ被害果（開花期はヘタ周りにリング状の傷が出来る）

なお、レモンのアザミウマ被害は6月中旬と7月上旬に防除が必要です。



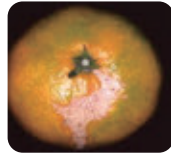
▲アザミウマ被害



▲遅れ花にアザミウマが寄生する
このような状態になると果実被害に注意

◆**灰色カビ病**

温州ミカン、安政柑、清見で被害が多い病気です。安政柑の外観が悪い園地は、果実上の花びらを落としたりやると綺麗な果実を作ることができません。



▲灰色カビ病

◆**黒点病**

黒点病防除薬剤のジマンダイセンは、散布後1カ月または降雨250mmを超える前に次の防除をする必要があります。アピオンEの混用や霧なしノズルなどを使用すると薬剤の残効期間が長くなります。枯れ枝が発生源となるので、梅雨入り前に枯れ枝除去を徹底しましょう。

◆**カイガラムシ**

秋の高温の影響でカイガラムシの発生

が多くなっています。トランスフォームフロアブルまたはエルサン乳剤で防除しましょう。

◆**かいよう病**

かいよう病が多発しているレモン、ネーブル等の園地では、5月下旬にも防除が必要です。健全部位への感染防止目的で薬剤散布します。殺菌効果はあまり期待できないので、罹病している葉や枝は徹底的に除去しましょう。



▲かいよう病

◆**カミキリ虫対策**

昨年度は、カミキリムシ被害により枯死した樹が多くありました。多発園地では、モスピラン顆粒水溶剤400倍を主幹から株元へ散布しましょう。

◆**ナメクジ・ウスカワマイマイ**

株元にドーナドを巻き付けることにより、被害を防止できます。



▲ウスカワマイマイ被害



▲ドーナドから上へあがれないウスカワマイマイ

【**夏肥の施用**】

中晩柑の大玉生産には、夏肥の施用が重要です。適期適量施肥を心掛けましょ

う。中晩柑類といしじは、1回の施肥で2回分の効果が期待できるBB元気200がお勧めです。中晩柑一発肥料を使用した園地でも葉色が悪い場合は追肥しましょう。

【**苦土資材の施用**】

苦土欠症状がみられる園地では、6月中旬頃にスーパーマグを10a当たり60kg施用しましょう。



▲苦土欠乏
緑色の部分がくさび形に見えるのが特徴

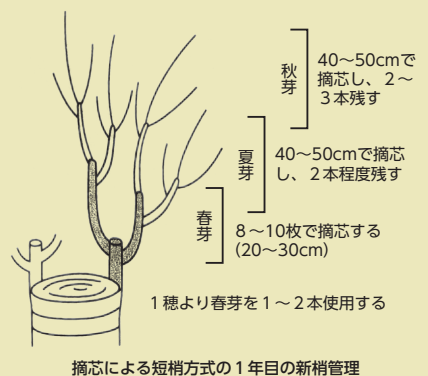
【**葉面散布**】

マンガン過剰症などで落葉が多かった園地では、新芽の充実を図るため元気一番を防除に混用散布しましょう。

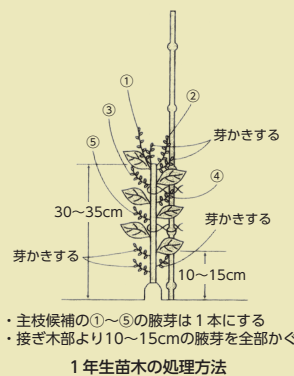
【**高接ぎ樹・苗木の管理**】

枝数が多くなりすぎないように、芽かきを行います。高接ぎ樹では、葉8〜12枚で摘心を行います。支柱を使って誘引を行い、アブラムシやミカンハモグリガの発生に注意を払います。1年生苗木には、アクタラ粒剤を使用すると防除の省力化が図れます。また、10日おきに元気一番とケルパックを混用散布すると早く大きくなります。

高接ぎの管理



苗木の管理



・主枝候補の①～⑤の腋芽は1本にする
・接ぎ木部より10～15cmの腋芽を全部かく
1年生苗木の処理方法

【**灌水**】

開花後の乾燥は生理落果を助長します。特にいしじは生理落果しやすいので、雨が降らない場合は灌水を徹底しましょう。

【**摘果剤の散布**】

摘果の省力化目的で落としたい部分にタムム水溶剤1,000倍とマシン油150倍を混用し散布します。気温が25℃以上の日が数日続く時を狙って散布しましょう。

【花母枝の剪定】

直花しかついでいない枝を花母枝といいます。ハツサフの花母枝は、開花後枯れ枝になることが多いので除去しましょう。



▲花母枝（直花が団子状についた枝）はもとから除去する

【温州ミカンの着果対策】

◆芽かき

花周辺の新梢を取り除くことにより、着果を促進します。

◆尿素とマグヰーフの散布

落弁期防除に混用散布することで緑化が促進され、着果しやすくなります。

◆かぶさり枝の除去

果実にかぶさっている新梢を間引くことにより着果が促進されます。

落葉果樹

本年度は春先から気温が高く、今後についても高めに推移する見通しとなっています。そのため、生育が前進化していきますので管理作業が遅れないように注意をしましょう。

ぶどう

【露地栽培（新梢伸長期）ジベ処理期（開花期）】

◆新梢管理

新梢と花穂との養分競合を避け、実止まりを良好にするために開花前に摘心を行います。また、新梢を誘引することで、新梢の先端を下げ、果房に流れる養分量を増やし果粒肥大を促進させましょう。

◆ジベレリン処理

1回目の種なし処理は、展葉始めからの日数・展葉枚数等を参考に、花穂の進み具合をみながら処理をしていきます。特に、ジベレリン処理前後1週間の気象条件（温度・日照）が、花穂の進みや実止まりに大きく影響しますので注意して観察してください。2回目は玉肥大のための安定した日を狙って行いましょう。

◆摘粒

果実肥大促進や房型をつくるためにも、実止まりが確認でき次第でできるだけ早く取りかかることが重要です。

小粒果や奇形果、病害虫被害果などを優先的に摘粒し、1房当たりの適正着粒数になるようにしてください。

また、開花やジベレリン処理、袋掛けの前後では、防除の徹底を心掛けてください。

もも

【新梢管理】

日当たりが悪くなると、果実品質が低下する原因となるのでねん枝や摘心を行います。

主枝の日焼け防止や側枝更新予定の枝は、ねん枝で伸長を抑えます。5月下旬～6月上旬が適期です。

伸長が旺盛な枝は、3～5葉残して摘心します。新梢伸長の旺盛な6～7月に行いますが、6月中旬頃までに行うと、花芽が着生した副梢が発生して、翌年の結果枝に使うことができます。

【袋掛け】

袋掛けには、病害虫の被害を防ぐ、着色を良くする、裂果が軽減されるなどの効果があります。必ず行いましょう。

袋掛け前には、必ず防除をし、見直し摘果を行い、適正着果量にしましょう。また、摘果した果実は病害の発生につながるので、必ず園外へ持ち出してください。

◆注意する病害虫

アブラムシ類、シンクイムシ類、モモ



▲アブラムシ



▲シンクイムシ被害

ハモグリガ、灰星病、黒星病、桃果実赤点病

いちじく

【摘心】

葉や枝の伸長等の栄養生長から、果実肥大・成熟等の生殖生長に促すために摘心を行います。展葉10～12枚の時点で先端を摘み取ります。その後、発生する副梢は随時かき取りましょう。

【ねん枝・誘引】

樹冠内部が混むと、葉ズレによる傷果、着色不良果が多くなるのでねん枝や誘引を行います。

樹冠内部が混みすぎている場合は、枝を間引いて日当たりをよくしましょう。

◆注意する病害虫

イチジクモンサビダニ、アザミウマ類、カミキリムシ類、イチジクヒトリモドキ、そうか病



▲キボシカミキリ

家庭菜園

5月に入り気温も高くなってきました。長期予報によると気温は平年より高く推移するとされています。

水分補給など、暑さ対策を十分行って

菜園作業を楽しみましょう。

今回は、定植後の管理について紹介し
ます。

【灌水】

定植直後は、極端に乾かないように注
意し、少しずつ灌水を行います。

活着後は、根が下方へ深く張るように
灌水を控えます。

気温が上昇し、収穫期に入ると再びこ
まめな灌水を開始します。

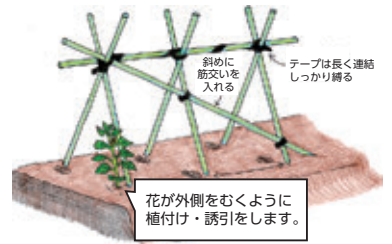
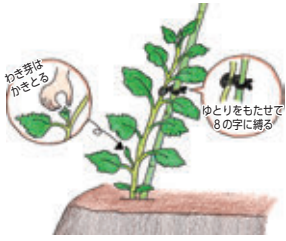
気温が高い時期は、早朝に灌水を行
いましょう。

【整枝作業】

◆トマト

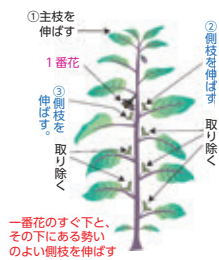
わき芽はすばや／＼5cmぐらいの大
きさまでに(手で取り除いて、主枝一本
とします。作業はなるべく晴天時に行
いましょう。

但し、草勢が強すぎる場合は、わき芽
をある程度大きくしてから取り除きます。
収穫の目標段数まで達したら、日よけの
葉を2〜3枚残して主枝の芯を止めます。



◆ナス

一番花の直下とその下のわき芽、もし
くは一番花の上下のわき芽を伸ばして3
本仕立てとします。これより下のわき芽
はすべて取り除きます。

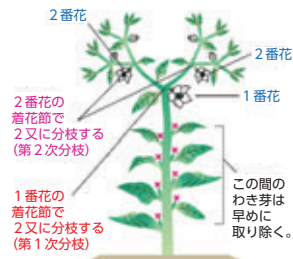


◆ピーマン

一番花より下のわき芽はすべて取り除
きます。

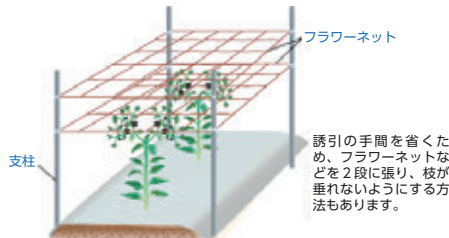


その後は放任とし、内向きの細い枝を
適度に間引きします。



◆キュウリ

株元4〜5節までの子づると雌花は取
り除き、6節以上から着果させます。子
づると孫づるとは葉を2枚残して芯を止め
ます。親づるとは支柱のてっぺんまで伸び
たら摘みます。



【摘果・摘葉】

生育がよくないのに早くから実がつく
と、ますます株が弱ります。樹勢が弱い
場合は、実を早めに摘みとります。

枯れた葉、病害虫に侵された葉は早
めに摘み取りましょう。

【追肥】

表1の追肥の時期や施用量はあくまで
目安です。生育状態をよく観察して、追
肥の有無や施用量を決定しましょう。

〈表1〉追肥の時期と1株当たりの施用量の目安

トマト	1回目は、第1果がピンポン玉くらいの時、2回目はその20日後(10g)
ピーマン	1番果収穫より始めて15〜20日おき(10g)
ナス	1番果収穫より始めて15〜20日おき(15g)
キュウリ	1番果収穫より始めて10日おき(10g)

